

☆ 男子校生と料理がコラボレーション！？ 「SDGs Cooking Innovation Lab」開幕

11月23日(土)、東京恵比寿にあるクックパッド株式会社にて、聖学院と静岡聖光学院の2校、総勢30名の生徒が集まり、「料理」から新たな価値を創造するべく、SDGs Cooking Innovation Lab が開かれました。オフィス内にはすぐにでも料理をしたくなるような開けた料理空間、参加者同士が密に話しやすい空間がひろがっており、初めは緊張気味だった生徒もすぐに打ち解けて料理やワークショップに没頭していました。



☆ チームワークでゼロから挑戦！ 「レシピを見ずにオリジナル料理を作る！」

オープニングが終わり、いよいよ料理に挑戦！クックパッド株式会社の小竹貴子さん(ブランディング・編集・担当 VP)主導のもと、与えられたミッションは、「レシピは見ずに制限時間内で各チームのオリジナル料理作る！」。「レシピを見ない」と訊いた途端、生徒からは「えーっ！？レシピ見ちゃいけないんですか？」と困惑の声が聞こえながらも料理がスタートしました。



キッチンに並べられたトマト、ダイコン、ニンジン、ラディッシュ、里芋、生姜などの食材たちは、静岡聖光学院の農園で栽培された野菜たちで美術科の教員と生徒が収穫したものです。そこに卵、肉を加え、初めは困惑していたものの、各チームが食材を見て、触って、匂いを嗅いで、話し合いながらするうちに、各チームの料理はみるみるうちに形になっていったのです。



時間が経つにつれ、食欲をそそる香りが部屋中に漂い、各チームで出来上がった料理が続々とテーブルに運ばれていきます。野菜、肉、卵の使い方はチームによって様々。1つとして同じ料理はありません。そして何より料理の完成度の高さとコンセプトに驚きました。



レシピがない中、あるチームは、「料理をしたことがなくレシピがない状態でも目の前の食材を使って、特性を生かそうとしながらも良い意味で“適当”につくりました。」と伝えました。料理の経験が無くても、見栄えや味の組み合わせなど試行錯誤を繰り返して創造される。ゼロから新たな価値を生み出すジャンプの過程が見える大きな可能性を料理に感じた瞬間でした。



☆男で作る料理は楽しい！でもなぜ男性は料理をしないのか？ 「料理とジェンダーギャップ」

チームで料理をつくって、食べて、「楽しい」「もっとやりたい」という声と興奮が醒めやらぬ中、クックパッド株式会社久井田宙大郎さんによる「料理とジェンダーギャップ」についてのワークショップが行われました。

「料理はやってみて楽しかった！なのになぜ日本において男性の料理をする割合が少ないのか？」世界各地のデータをもとに生活、宗教、文化、環境などから料理の背景にあるジェンダーのギャップはなぜ起こるのかについて考えているうちに料理におけるジェンダーギャップは自分たちの行動によって変えられるのかもしれないと気づき、生徒の心にモヤモヤしながらも小さな火がともりはじめたのです。



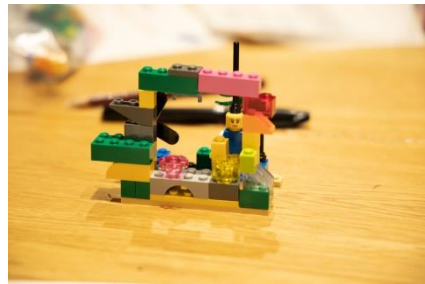
☆ LEGO®□ SERIOUS PLAY®で創り出す「男性が料理をしたくなる世界」

静岡聖光学院と聖学院。はじめて出会った2校の生徒たちが、チームでレシピがない中でも、試行錯誤を繰り返しながら一つの料理を創造する。料理におけるジェンダーギャップについて料理を共にした仲間を考える。

この過程を通して、「男でする料理は楽しい！でもなぜ男性は料理をしないのだろうか？」生徒たちの中ですでに男性の料理への在り方を考えるマインドがセットされた。そこに聖学院の児浦良裕先生（広報部長 国際部長 21世紀教育企画部長）がLEGO®□ SERIOUS PLAY®を使って、「男性が料理をしたくなる世界をつくろう」をテーマに、本企画最後のワークショップが展開されました。



児浦先生はLEGO®□ SERIOUS PLAY®を使う上で「手は第2の脳」「悩む前にレゴを持って手を動かそう！」という合言葉を示し、「男性が料理をしたくなる世界」というテーマを提示して、まずは個人でアイデアを創り出します。出来たアイデアを自らの言葉で意味付け、グループ内に共有します。ある生徒は、「男性が料理をしたくなるためには誰にも見られず一人で集中できる空間が必要」「だから壁をつけて他者から見られないようにしている」と表現しました。その他にも誰一人として同じ答えのないありとあらゆるアイデアが出されました。そしてそれらをグループで統合し、そのグループでの「男性が料理をしたくなる世界」を創り出します。あるグループは、「今後AIによる新たな料理が生み出される、そのアイデアを人間が活かしさらに新しいものを創造していく」と表現し、またあるグループは、「料理のテーマパークを創り、料理だけでなく食に関するアトラクションを作っていくことで料理をしたくなる世界をつくる」と現実を越えた新たな挑戦となるアイデアを次々と提言していました。



「男子高生と料理」、初めて耳にした方にとっては、一体どういった組み合わせなのか不思議に思うかもしれませんが。しかしこの日、クックパッド株式会社、静岡聖光学院、聖学院との料理とワークショップを通して、これからの未来を担う男子たちがジェンダーという枠を超えて、一人として同じもののない新しいアイデアと決意が生み出されたのです。このプロジェクトに参加した生徒が今後インフルエンサーとなって、料理・食の奥深さと価値を伝えるとともに、新たな価値をカタチにしてくれることを大いに期待しています。

【写真提供：クックパッド株式会社】